

産業の栄えるまちに

年 表

29. 9. 28	町村合併記念地方自治展覧会に八端織物展示（日本橋三越）	37. 12. 20	都留市園芸振興協議会発足	47. 5. 17	甲州織物求評会開催
30. 12. 5	都留市工場誘致対策審議会設置	38. 3. 13	都留職業訓練所完成	48. 3. 31	都留市企業奨励に関する条例制定
31. 7. 28	谷村織物工業協同組合設立	38. 11. 29	都留市養豚振興協議会発足	49. 3. 31	第一次林業構造改善事業完成
31. 11. 20	第一回都留市織物祭開催	39. 3. 18	都留市小口金融資制度発足	49. 4. 1	農村総合整備モデル事業（農道、用排水施設等）着工
32. 9. 10	店主、店員学校開設（県と共催）	39. 4. 3	都留市養鶏組合設立	50. 8. 9	都留市農業後継者クラブ結成
34. 9. 1	都留職業訓練所開設	39. 5. 6	大幡稚蚕共同飼育所完成	51. 4. 1	第二次林業構造改善事業着工、55年完成目標
35. 12. 4	第一回都留市農業祭開催	44. 6. 25	全市の水稻病害虫ヘリコプターで一斉防除事業実施	51. 4. 26	大原工業団地ほ場整備事業完成
35. 12. 14	都留市商工会発足	46. 4. 1	地区森林組合を合併し、都留市森林組合発足	52. 9. 12	農村環境改善センター完成
36. 11. 21	第一回都留市商業祭実施	46. 4. 1	第一次林業構造改善事業着工	53. 3. 30	田野倉育苗センター完成
		46. 12. 13	都留機械金属工業協同組合設立	53. 8. 18	都留市産業振興対策審議会発足

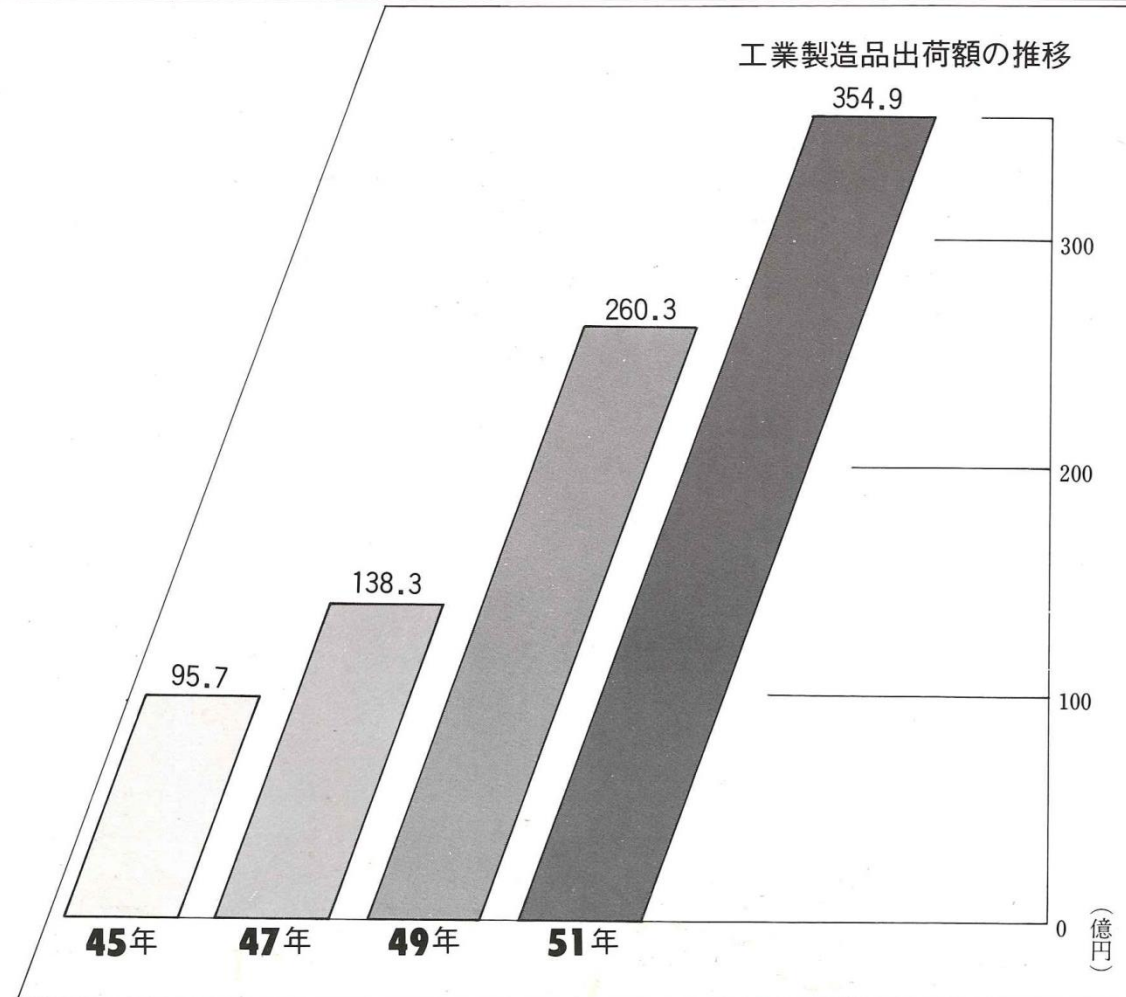
産業構造の推移

昭和50年の就業者数は、13,095人、産業別構成で見ると第一次産業が1,080人で8.2%、第二次産業が6,083人で46.7%、第三次産業が5,889人で45.1%と本市の産業構造は、二次及び三次産業の占める割合が大きくなっています。その内容をみると、第一次産業では農業が94.7%、第二次では、製造業が81.1%、第三次では、サービス業が31.6%と、これらが全産業の60%を占めています。工業の発展と併せて農林業従事者の減少とが相関した形となって現われています。

伝統の繊維工業を中心に

都留市の工業の原点は繊維工業です。生糸を精練するのに桂川の水質が適し、良質の製品が生産されるため、これが各地の人々に愛され、ますます規模が大きくなり、今日の土台を築くまでにいたしました。婚礼用甲州ドンス夜具地、座布団地など、全国的に名高い甲州織が続々と生産され、日本全域にわたり出荷され、多数の人々に受用されています。繊維工業のほかは、カメラ部品、水晶発振子、通信機等の各種部品の製造工場が進出してきて、携わる人口もほかに増えて5,000人を突破し、南・北都留地方で最も数多い誘致企業が操業しています。製造品出荷額は昭和53年で400億円に達しました。

工業製造品出荷額の推移



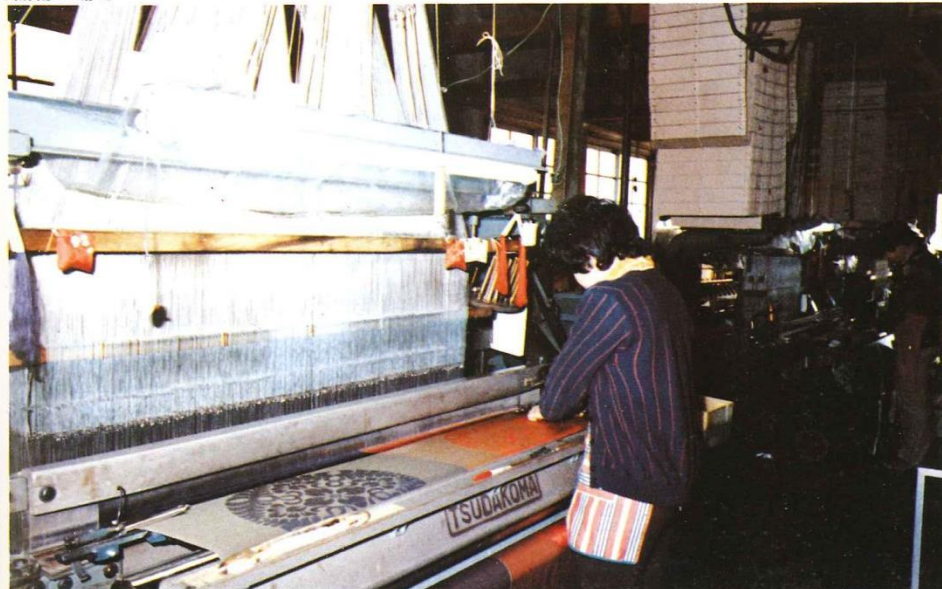
豊富な水資源

市内の各河川は、その沿岸地帯のかんがい、飲用、雑用水等として利用されているほか、桂川は発電に利用され、市内に3カ所（鹿留、谷村、川茂）の発電所があります。水は原糸布綿の染色用水として、なくてはならないものであり、住宅用、農業用、工業用においても、水資源には恵まれています。将来流水の利用が高度化されれば、発電所の新設も可能で、水資源と地の利を生かして産業の発展が図られます。



写真

織物工場で



染色工場で

機械部品の製造

写真

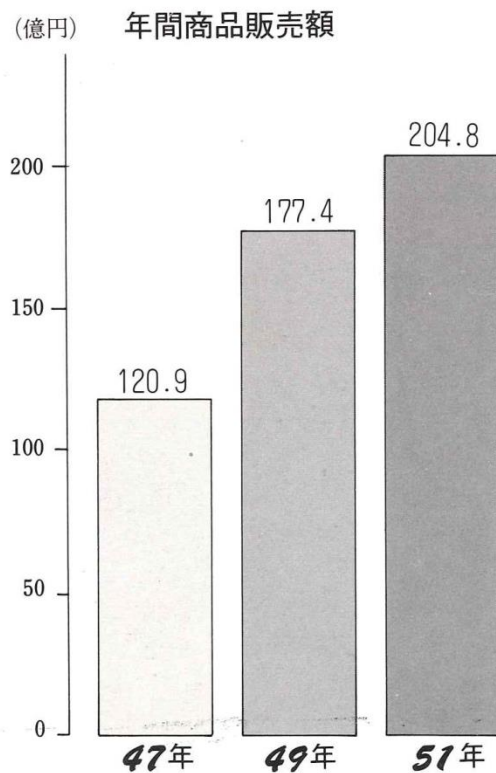
商業も農業も

近代化と合理化が進む

早急な対策が必要

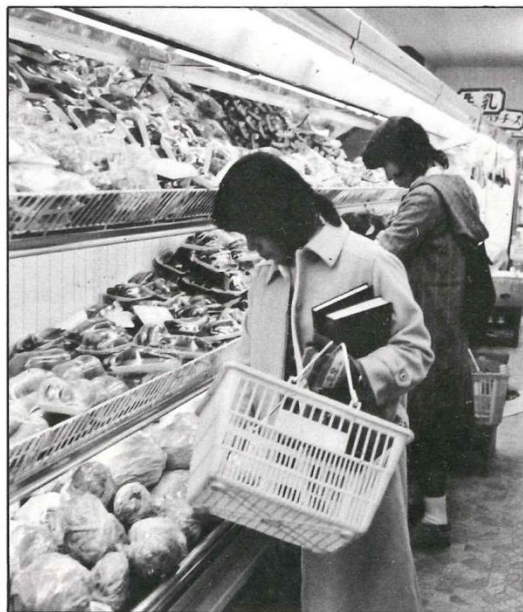
本市は昔から甲州織の集散地として発展しました。関係業者の往来も激しく、一般生活必需物資の商取引も盛んでした。

しかし、交通機関の発達に伴い、次第にその繁栄は他に移ってしまう結果となりました。さらに各種交通機関の高速化により、顧客が東京甲府方面に流出することも起り、市内の中小業者は、商店街づくりなど、早急に対策を図ることが必要とされます。



商店街の共同事業

主な商店街としては、三町商店街、仲町商店街、都留銀座商店街、高尾町商店街、東桂商店会等があり、独立した任意団体組織の商店会と



消費者の買物

して運営されています。このほか小規模な弁天町、宝、禾生などの商店会があります。市制祭協賛の「青空市」、秋の商工祭大売り出し、商店連合会の年末大売り出し、三町商店会、都留銀座商店会、仲町商店会で発行している“サービス券”など、意欲的な共同事業を行なっています。しかし、交通網の整備により最寄品は、富士吉田市、大月市にある大型店への傾向を示し、買回り品も中央高速自動車道の開通で、東京、甲府に依存する度合が高く、購買客に対する商店の抜本的対策が必要となってきました。



伝統の織物工業は、八端織物の名で広く全国に知られます。問屋の店先に積まれて、取引を待つ製品。

消費生活の相談相手

昭和49年以来、市民の消費生活における相談相手として、消費生活相談員と消費生活苦情相談員制度をとり入れ、各地区の苦情相談、消費者行政に関するとりつき役を果たしています。また、むだをはぶいたよりよい日常生活が営めるよう消費者と業者による消費生活に関する懇談会を開催しています。



水菜の栽培



農村環境改善センター

農業振興の方向

主幹作目である養蚕は、稚蚕共同飼育所や社蚕共同利用施設の設置整備が進められています。水稲作は中型機械化体系の確立による省力化を推進し、野菜、畜産、花卉、花木については、今後、育苗センターの建設と流通機構の確立によって地域に新しい生産団地整備を促進することにしていきます。

主幹作目は米と養蚕

農家戸数は2,306戸、うち専業農家74戸(3%)、第一種兼業農家176戸(8%)、第二種兼業農家2,056戸(89%)となっており、第二種兼業農家が非常に多いのが特徴です。主幹労働力はいずれも他産業へ就職し、農外収入に依存する傾向が強まっています。農業生産は米と養蚕を中心とし、他にバラエティーに富んだ作物構成により生産活動が続けられています。近年は労働力の減少に伴い、省力できる安定作目を主にして経営されています。とくに米と養蚕においては、基盤整備と並行して機械力の導入など近代化が進んでいます。また、田畑転換等により出荷野菜の栽培、花卉盆栽等の商品作目の導入意欲も積極化してきました。

主要農業粗生産額

